



24 鹿島一布

《布目象嵌花鳥文八角壺》

一点

明治二十八年(一九九五)

四分一・金、彫金

径一六・四、高二五・八

東京府 第二部第二十一類

妙技三等賞

布目象嵌を得意とする鹿島一布(一八二八〜一九〇〇)が、第四回内国博に出品した代表作である。布目象嵌とは、金属の地板に縦横方向に刻みをいれ、その上にのせた金属片をたたいて、凹面に金属片を嵌めこむ技法である。刻みが布目状であることから布目象嵌とよばれ、平面的でありながら微妙な色彩感や図様をあらわすことができた。一布は、それまで刀装具の加飾技法の一つであったこの技法を額面や器物の側面に応用し、単独作品になりうる絵画的な表現を開拓した。本作では八つに面取りした壺の胴部を、四分一と金を主体にする面を交互にくり返し、四分一の面では水墨画の筆遣いを思わせるおぼろげで柔らかな線描を再現し、金の面では有職文様を用いて精緻できらびやかな表現を成し遂げている。

『第四回内国勸業博覧会授賞人名録』では、製作者である一布に対しては「金銀面ヲ交ヘテ精疎宜キヲ得飾紋織緻爛然目ニ炫ス」、出品者である中村喜之助に対しては「良工ヲ撰ミ得テ此精品ヲ製ス金彩絢爛人目ニ燦炫タリ」と授賞理由が述べられ、両者とも妙技三等賞を受賞した。一布は第四回内国博以外にも、第三回では「布目象嵌色紙形歌絵香箱」で二等妙技賞を受賞している。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections